

## 【 避難所簡易グッズ作り 】



スリッパ作りの様子



スリッパ完成！

はじめに、避難所の様子が分かる映像を生徒に見せ、普段使っているものが手に入らないことを伝えました。そして、身近にあるものを代用して必要なものを作ることができる例を紹介し、新聞紙を使って「スリッパ」や「食器」などを作成しました。既に小学校で経験済みの生徒もいましたが、作り方を忘れていた生徒も多く、繰り返し実施していくことが大切であると感じました。



- ・家に帰って、さっそく「防災用リュック」の中に新聞紙と折り方の説明書を入れておきました。
- ・「避難所」と聞いたら、安全で物がそろっているイメージでしたが、全然違っていました。家族や地域の方にも作り方を教え、防災に対する意識をみんなで高めていきたいです。

## 【 HUG（避難所運営ゲーム） 】



町内会長や自主防災会長等と一緒にHUGを実施



災害時の避難所運営の主体は自主防災会となりますが、HUGを通して、中学生の立場から避難所運営の大変さや難しさを実感することができました。そして、避難所生活を送ることになったら、地域のために動いてくれる運営者のためにも、自分のできることを見つけ、地域のために行動したいという思いをもつことができました。



- ・いつ災害が起こるか分かりませんが、動けるのは若い私たちです。今回の経験を生かし、困っている人のために率先して動けるようになりたいです。
- ・避難所に頼るだけでなく、家で備えるべきものもあるので、もう一度家族で話し合いたいです。

【参加した実践委員より】避難所を運営する立場から考えることができたことに意義があった。HUGを経験しておくことで、実際に避難所に行くことになったら、我々も子どもたち（中学生）も、ただ指示に従うだけでなく、自分から周りの人たちを助けられるようになるのではないかなと思う。

## 【 避難訓練（無告知・行方不明者あり） 】



素早くシェイクアウト



行方不明者の搜索

実践委員会において、各校で実施している避難訓練の方法や課題などについて共有する場を設けました。それを受け、吉良中学校では初めて「無告知」での避難訓練を実施しました。さらに、行方不明者（生徒）を設定し、搜索まで行いました。

様々な課題も生じましたが、訓練を通して、生徒への指示の仕方や避難経路の確保など、教職員が本気になって災害時の対応を考えるきっかけとすることができました。

【教職員より】多くの生徒から「周りに人がいなくて不安になった。こういう時に自分で判断できるようにならないといけない」といった声が聞かれ、生徒も教職員も避難のあり方を自分事として考えることができた。今回の訓練の成果と課題を整理し、生徒を守れる体制作りをさらに構築できるよう継続して実施していきたい。